

令和2年度

事業報告書

公益財団法人 通信文化協会

目 次

1	はじめに	1
2	郵政博物館の運営事業	1
	(1) 郵政博物館活動	1
	(2) 博物館の交流活動	2
	(3) 資料センター活動	2
3	前島密賞の贈呈事業	3
4	会報「通信文化」の発行事業	3
5	文化講演会の開催等通信文化の普及・発展事業	5
	(1) 文化講演会等の開催	5
	(2) 青少年ペンフレンドクラブ(P F C)への活動支援	5
	(3) 社会貢献活動の実施	5
6	土地・建物賃貸事業	5
7	会員に対する諸施策	6
	(1) 記念品等の贈呈	6
	(2) 「郵政博物館」入館料の割引	6
	(3) 叙勲祝賀会の開催	6
	(4) 新年賀詞交歓会の開催	6
8	団体傷害保険等の取扱い	6
9	会員増加対策	6
10	役員会議等開催状況	7
	(1) 理事会	7
	(2) 評議員会	8
11	業務等の見直し	8
○	「事業報告の附属明細書」はない旨の記載	8

1 はじめに

本協会は、明治41年5月に通信協会として発足、同43年には「財団法人通信協会」に改組し、百余年の歴史を刻んできたが、平成24年3月28日、内閣総理大臣から公益財団法人として認定を受け、同年4月1日に「公益財団法人通信文化協会」として新たにスタートした。

当協会は郵政博物館の運営、前島密賞の贈呈、通信文化の普及・発展等に関する事業を行い、もって我が国の手紙等文字コミュニケーション文化と情報通信・放送文化の向上に寄与することを目的として文化活動等各種施策を実施した。

収蔵施設については千葉県市川市 行徳郵便局内に「郵政博物館資料センター」を設置している。

2 郵政博物館の運営事業

郵政博物館は、郵政・通信文化の普及・発展に向け次世代の利用者との幅広い交流を図り、歴史的資料・知識を後世に伝えることを目的として、東京スカイツリータウン・ソラマチ9階にオープンして7年目を迎えた。

「展示」、「収集・保存、調査研究」、「文化・教育普及、生涯学習支援」という博物館における3つの活動を行い、不特定多数の方にとって文化教養を磨く場、教育普及の場としての活動を行っている。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大による政府からの緊急事態宣言発出やイベント自粛要請を受け、新型コロナウイルス感染予防策を講じながらの運営となった。

運営日について、臨時休館（3月2日～6月15日）としたが、再開後は開館日を平日の週3日とし、7月13日からは週5日（平日のみ）とした。また、開館時間は11時から16時と短縮し、スタッフはマスク、フェイスガード、手袋を着用のほか、備品類の消毒、入場制限等を実施した。お客様にはマスクの着用、フィジカルディスタンスの確保のほか、入館者カードの記入等のお願いをした。

(1) 郵政博物館活動

常設展示場では、「心ヲツナグ 世界ヲツナグ」をコンセプトテーマとして、体験型のデジタル機器や映像手法などを使って郵政文化を楽しく体感できる展示としているが、新型コロナウイルス感染予防のため、体験型機器類はすべて撤去又は中止とした。

企画展示場は、10月から再開したが、郵政・通信文化の歴史を伝承するとともに文化・学術・教育の発展への寄与を目的とした、特別展（企画展）を以下のとおり、年間を通して3回開催した。また、多目的スペースでは、集客イベントを避け展示のみを行う施策を実施した。

令和2年度の入館者は9,277名（対当初計画15.5%）、開館日数は185日で、一日平均50名となった。

ア 特別展（企画展）開催状況

No	特別展名	期間	開催日数	入館者数(人)
1	東海道と旅展	10月12日 ～12月4日	38	1,958
2	年賀状展－郷土玩具にこめた祈りのかたち－	12月14日 ～1月15日	18	828

3	時計物語展	2月1日 ～3月26日	38	1,973
---	-------	----------------	----	-------

イ 多目的スペース等での主なイベント開催状況

No	主催者	イベント名	期間
1	郵政博物館、 Tomoart	「チャックまの夏休み2020」	7月13日～7月28日
2	郵政博物館、 アートユニット uwabami	「uwabami 探し絵イベント『ボンとハレトモ&タヌタヌ探偵の世界』」	8月3日～9月25日
3	受信環境クリーン 中央協議会	第53回「受信環境クリーン図案コンクール」入賞作品展	10月20日～10月27日
4	郵政博物館、 NPO 法人郵趣振興協会	郵博 特別切手コレクション展 「第3回南方占領地のフィレター展」	12月14日～12月15日
5	郵政博物館、 Tomoart	「チャックまの謎解き探偵団ーウィンターミステリー」	12月21日～1月29日
6	郵政博物館 アートユニット uwabami	「uwabami 探し絵&作品展」	2月8日～2月24日
7	郵政博物館 協力：講談社	「いりやまさとし『パンダたいそう』絵本原画展」	3月1日～3月26日

郵政博物館以外では、前島記念館(新潟県上越市)、坂野記念館(岡山県岡山市)及び沖縄郵政資料センター(沖縄県那覇市)において、地域に縁の深い資料の展示活動を行っている。

(2) 博物館の交流活動

墨田区に所在する企業博物館※が連携した「すみだ企業博物館連携協議会」の施策としてスタンプラリーを実施したほか、「すみだ北斎美術館」や東京スカイツリータウン・ソラマチとの連携等により、地域振興・活性化施策の推進を図った。

※当館ほか、花王ミュージアム、セイコーミュージアム、たばこと塩の博物館、東武博物館

(3) 資料センター活動

ア 資料の収集・保存、調査研究事業活動

資料の収集・保存は、あらゆる博物館活動の基盤となる重要な活動であり、昨今のネット情報社会に対応するため、収蔵資料のデジタル化を推進し、ネット上で公開した。

調査研究については、不特定多数の方から関心を持たれ、評価されることを目指した通信文化に関する研究活動を積極的に推進した。

(ア) 郵政歴史文化研究会の開催(第1～第5分科会および特別研究等)

(イ) 研究紀要の発行(第12号)

(ウ) その他調査研究・修復・保存整理の実施等

イ 文化・教育普及、生涯学習支援

日本郵政グループや報道関係者、他の博物館・美術館、研究者等に対して積極的に収蔵資料

の撮影や閲覧、取材等に対応して照会回答を行ったほか、通信文化資料の有効活用のために、資料貸出（45件）のほか「郵政創業150年」に関する日本郵政グループへの企画協力など、積極的に行った。

No.	項目	件数
A	貸出	45件
B	撮影・データ提供・掲載・放映	180件
C	特別閲覧	71件
D	取材・照会回答	321件
E	原稿提供・監修	53件

また、教育・普及活動の一端として、博物館学芸員課程受講者を対象に博物館実習を行ったほか、日本郵政グループの社員研修等にも協力し、講義や見学研修などを行った。

3 前島密賞の贈呈事業

前島密賞は、近代国家の建設に当たり、社会の基盤となる郵便や物流をはじめとしたネットワークを整備し、国民の暮らしに多大な利便性をもたらした通信事業の創始者である前島密の功績を記念し、文字コミュニケーション・情報通信・放送分野でその精神を伝承・発展せしめるために、昭和30年度に創設された。以来、令和元年度までに同分野において顕著な功績のあった方々1,095名・12団体に贈呈して、その功績を称え顕彰するとともに文字コミュニケーション・情報通信・放送文化の発展に寄与してきた。

令和2年度の前島密賞（第66回）については、例年同様に各推薦機関（総務省、日本郵政株、日本電信電話株、日本放送協会、電気通信事業者協会、日本ITU協会、日本民間放送連盟、テレコムサービス協会、電波産業会、日本ケーブルテレビ連盟）から推薦を受け、加えて、協会からも推薦できることとして実施した。また、第66回から、現在活躍し今後もお一層の功績が期待される者を対象とした奨励賞を創設した。

令和2年7月13日に募集要綱をホームページで公表するとともに、同年9月30日を締切日として推薦を依頼し、2回の選考委員会及び理事会決議を経て、前島密賞は29名（うち共同研究17名）・3団体、奨励賞は5名（うち共同研究2名）の受賞者を決定し、令和3年4月9日に多数の参加者の下に贈呈式を開催した。

受賞者の氏名、功績概要等は、各報道機関に通知したほか、当協会のホームページで公表するとともに会報「通信文化」に掲載した。

4 会報「通信文化」の発行事業

記事内容は、読者の約6割を占める郵政グループ現役社員に役立つものとするため、社会の多様化に対応した内容の「ダイバーシティ通信」を引き続き掲載し、郵便局等での様々な社員の活躍や郵便局での取り組みなどを紹介した。

また、郵政グループの経営関連の記事を増強したほか、マネジメントに関する記事も多く掲載した。

健康問題は、読者の関心が極めて高いことから、医師の鎌田實氏の執筆する「人生100年時代をどう生きるか」を新しく掲載し、読者からは好評を得た。

また、読者への還元として、当選者に各地の名産品等が当たる「読者プレゼント」を引き続き実施した。

特集記事コーナーでは、著名人による講演会の内容を「岡野裕基金記念講演会」記事として紹介し、毎回読者アンケートで好評を得ている。

なお、こうした会報編集に加えて、会報に掲載する広告の募集にも力を入れ、昨年度に引き続き広告収入の確保に取り組んだ。

年間12回 756,000部発行 (月平均63,000部)

(敬称略)

発行月	特集記事	執筆者又は話し手
2年 4月	岡野裕基金記念講演会 「マネジメントに必要な職場における健康管理」	桃山学院教育大学教授 栗岡住子
5月	岡野裕基金記念講演会 「地名に込められた伝言」	宮城県地名研究会会長 太宰幸子
6月	第65回前島密賞受賞記念インタビュー 「社会を大きく変える5G」	(株)NTTドコモ 永田聡
7月	岡野裕基金記念講演会 「ボールパークが街に活気を呼び込む」	広島市経済観光局長 日高洋
8月	執筆 「上手な仕事の任せ方」	(株)らしさラボ体表取締役 伊庭正康
9月	インタビュー 「コロナ禍と日本再生」	一般財団法人日本総合研究所会長 寺島実郎
10月	岡野裕基金記念講演会 「与える者は与えられる」	上田情報ビジネス専門学校 副校長 比田井和孝
11月	執筆 「キャッシュレスはどう進む」	クレジットカード評論家 岩田昭男
12月	第65回前島密賞受賞記念講演 「言葉の生きる時代」	前(株)文化放送会長 三木明博
3年 1月	郵便創業150周年記念座談会 「国家発展の基礎となった郵便制度」	歴史家・作家 加来耕三 通信文化協会理事長 齋尾親徳ほか
2月	岡野裕基金記念講演会 「男性脳と女性脳」	(株)感性リサーチ代表取締役社長 黒川伊保子
3月	インタビュー 「人が死なない防災をめざす」	東京大学大学院特任教授 日本防災情報学会会長 片田敏孝

5 文化講演会の開催等通信文化の普及・発展事業

(1) 文化講演会等の開催

当協会の元会長である故 岡野 裕氏の夫人からの寄附(1億円)による「岡野裕基金」により、全国各地において、「文化講演会」を3回、総数591人の参加を得て開催するとともに、手紙教室を82回、総数7,664人の参加を得て開催し、文化活動を行った。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、当初予定していた講演会及び手紙教室の中止や例年実施している企画そのものができない状況であった。

文化講演会等開催状況

地方本部	開催日	施策名等	講師	開催場所	参加者数
東北	3.2.4	「東日本大震災の記憶 ～1000年に一度の災害は、1000年 に一度の学びの場～」	南三陸ホテル観洋 女将 阿部 憲子 氏	仙台市	88名
東京	3.1.28	マネジメント強化研修 「幸せな人生を送るために知ってお きたい5つの法則 最高の組織を創るために知っておき たい5つの法則」	(株)アビリティトレーニング 代表取締役 木下 晴弘 氏	港区	173名
九州	2.9.11	「感性コミュニケーション ～男女脳差理解による組織力アップ 講座～」	(株)感性リサーチ 代表取締役社長 黒川 伊保子 氏	熊本市	330名

(2) 青少年ペンフレンドクラブ（PFC）への活動支援

ア 地域交流会活動支援

例年、手紙によるコミュニケーションの活性化を全国的に広めるため、日本郵便(株)各支社において開催される「PFC会員交流会」の講師の手配、会場の確保、ノベルティグッズの提供などの支援を行っているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となり、支援できなかった。

イ 「レターパーク」読者プレゼント

「レターパーク（会員会報誌 毎月1回発行）」は、PFC会員メリットの重要ツールとなっている。

読者に「通信文化協会」のPRも兼ねて、抽選により毎回20名へ賞品（レターセット等）と会報「通信文化」を贈呈した。

(3) 社会貢献活動の実施

例年、社会貢献活動の一環として、ポスト清掃等を実施しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、実施できなかった。

6 土地・建物賃貸事業

全国6か所に所有している土地は、引続き日本郵便株式会社等へ賃貸しているほか、文京区湯島にある新湯島ビルの2・3階各室を賃貸マンションとし、その入居管理・ビル管理等を委託して、円滑な運営と安定した賃貸収入を確保するとともに、計画どおりの借入金返済を行った。

7 会員に対する諸施策

会員に対して、次の施策を実施した。

(1) 記念品等の贈呈

- ア 会員へのサービスとして、満61歳を迎える年度以降に在会10年以上となる個人会員1,344人に対し、「長期在会記念品」を贈呈した。
- イ 米寿を迎えた個人会員561人に「米寿記念品」を贈呈した。
- ウ 協会手帳を配付した（希望者のみ）。

(2) 「郵政博物館」入館料の割引

会員サービスの一環として、本人及び同伴の家族が入館する場合、入館料50円の割引を実施した。（割引後の入館料 大人250円、小人100円）

(3) 叙勲祝賀会

勲章を受章した本部及び関東・東京・南関東地方本部所属の会員を対象に、本部及び関東・東京・南関東地方本部の共催で、春と秋に祝賀会（米寿祝賀会を併合開催）を開催していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止とした。

(4) 新年賀詞交歓会

東京都内と関東・南関東地域在住の会員を対象に、本部及び関東・東京・南関東地方本部の共催で開催していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止とした。

8 団体傷害保険等の取扱い

通信文化協会会員及び郵政グループ社員を対象とする福利厚生のための傷害保険等契約状況は、次のとおりである。

【令和2年度における契約状況】

区 別	口・件 数	保 険 料
団 体 保 険	79千口	590百万円
団 体 扱 保 険	5千件	250百万円

9 会員増加対策

令和2年度の会員増加対策については、新規入会の個人会員会費の1,000円割引キャンペーンの継続や定年退職者等のシニア会員への継続確保施策に取り組み、事業運営の基盤である会員の獲得に努めることとし、純増目標として、個人会員・法人会員（口数）を合わせた805人/口を設定した。

地方本部における勧奨活動体制としての運営委員会の開催や地域に密着した参与の積極的な勧奨活動体制の強化、また、会員サービスとしての会報の掲載内容充実を図り、身近な「地方本部だより」の発行、会費の税制優遇の周知などにより、新規加入会員は2,726人となったも

の、年度末の個人会員数・法人会員（口数）に対しては、129人/口（対目標16.0%）の純増に留まった。

会員の現況は次のとおりである。

区 別	令和2年度末	令和元年度末	増・減
個人会員(人)	62,548	62,395	153人増
法人会員(口)	890	914	24口減

（個人会員地方本部等内訳）

区 別	令和2年度末(人)	区 別	令和2年度末(人)
北海道	5,670	近畿	8,703
東北	6,179	中国	4,643
関東	5,673	四国	3,097
東京	4,920	九州	6,780
南関東	2,151	沖縄	487
信越	4,174	本部	614
北陸	2,337		
東海	7,120	合計	62,548

（参考）

「免除会員及び在会15年以上となる終身会員に対する寄附のお願い」として、平成22年度から会報の配付を希望する会員には会報郵送料等相当の寄附（支援）をお願いしており、令和2年度は1,824人の会員から総額2,751,000円の寄附収入があった。

10 役員会議等開催状況

重要案件の審議のために開催した会議は、次のとおりである。

代表理事の職務執行状況の報告は、第28回理事会において行った。

（1）理事会

○ 第26回理事会（令和2年5月22日）

- <議案>
- 1 令和元年度事業報告
 - 2 令和元年度決算報告
 - 3 特別寄附金の受入れ
 - 4 役員報酬規程の改正
 - 5 組織規程の改正
 - 6 前島密賞規程の改正
 - 7 定時評議員会の開催日時等

○ 第27回 理事会（令和2年6月22日）

- <議案> 代表理事の選定

○ 第28回 理事会（令和3年2月15日）

- <議案> 1 第66回前島密賞の授賞者決定
2 令和3年度事業計画
3 令和3年度収支予算、資金調達及び設備投資の見込み
4 定時評議員会の開催

(2) 評議員会

○ 第17回 評議員会（令和2年6月22日）

- <議案> 1 議長の選出
2 議事録署名人の選出
3 令和元年度決算報告書
4 理事、監事及び評議員の選任

○ 第18回 評議員会（令和3年3月11日）

- <議案> 1 議長の選出
2 議事録署名人の選出
3 令和3年度事業計画
4 令和3年度収支予算、資金調達及び設備投資の見込み

1.1 業務等の見直し

協会の存立基盤である会員の確保・会費収入の確保は協会財務に連動する極めて重要な業務であるため、より一層、地方本部における執行体制の強化を図れる本部長等人材の活用・登用を推進している。

また、会員確保・会員サービスの観点から実施している海外の郵政博物館視察の計画・実行に当たっては、引き続き専担の職員の配置を行い、円滑な実施を図っている。

令和2年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和3年5月

公益財団法人 通信文化協会